

令和6年度
第1回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化処理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：令和6年9月18日（水） 10:00～12:00

場所：東京会場とWEB会議システムの併用方式により開催

出席委員（敬称略）

元 公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
国立研究開発法人 国立環境研究所 フェロー	大迫 政浩（WEB）
国立大学法人 岡山大学 名誉教授	川本 克也
国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環領域 副領域長	倉持 秀敏
国立大学法人 京都大学大学院 工学研究科都市環境工学専攻 教授	高岡 昌輝（WEB）
国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環領域 客員研究員	高田 光康
国立大学法人 東北大学大学院 先端環境創学専攻 教授	吉岡 敏明
国立大学法人 京都大学大学院 環境安全保険機構 機構長	米田 稔

議事要旨

I 本日の議事

1. 大熊町における廃棄物処理業務（減容化処理）について
2. 浪江町対策地域内廃棄物等処理業務（減容化処理）について

II 検討内容

1. 大熊町における廃棄物処理業務（減容化処理）について
三菱・鹿島共同企業体（以下、「三菱・鹿島JV」という。）より、業務内容について説明があった。

（1）減容化率について

委員より、令和6年度前半と令和4年度の減容化率が他の年より若干低い理由は何かとの質問があった。

「三菱・鹿島JV」よりごみ質によるものとの回答があった。また、「環境省」より令和6年度の処理対象物には土砂が多く含まれていたためこれによる影響と思われるとの回答があった。

（2）飛灰量抑制試験について

委員より、飛灰の発生量を抑制するため2段設置されているバグフィルターのうち2段

目のバグフィルターへの消石灰噴霧を停止する運転は今後も継続するのか、との質問があった。

「三菱・鹿島 JV」より、2段目のバグフィルターの様子を見つつ今後も継続していきたい、との回答があった。

(3) 炉内作業における被ばくについて

委員より、飛灰中の放射性物質濃度が高いため炉内への蓄積もあると考えるが、炉内メンテナンス作業における放射線被ばくについて注意すべき点はあるか、との質問があった。

「三菱・鹿島 JV」より、炉内に残っている主灰、飛灰はさほどの量ではないので放射線量はそれほど高くなく作業時間も短いことから、通常の被ばく線量管理で問題ない、との回答があった。

(4) バグフィルターによる放射性物質の除去性能について

委員より、2段目のバグフィルターへの消石灰の噴霧を試験的に止めているとのことだが、排ガス中の放射性物質の除去性能に影響はないか、との質問があった。

「三菱・鹿島 JV」より放射性物質は、ばいじん吸着されて1段目のバグフィルターだけでも十分除去されていること、及び2段目のバグフィルターろ布表面のケーキ層によるバックアップ機能を今後検証予定である、との回答があった。

2. 浪江町対策地域内廃棄物等処理業務（減容化処理）について

日立造船・安藤・間・神戸製鋼所特定共同企業体（以下、「日立造船・安藤・間・神戸製鋼所 JV」という。）より、業務内容について説明があった。

(1) イノシシ軟化施設の菌床の放射性物質濃度について

委員より、最近処理開始の頃より菌床の放射性物質濃度の上昇程度が小さくなっているがその原因は何か、との質問があった。

「日立造船・安藤・間・神戸製鋼所 JV」より、イノシシの体内の放射性物質量が少なくなっていることに加えて、イノシシの処理量が豚熱の流行以来極端に少なくなっていることが原因と考えている、との回答があった。

(2) 解体撤去作業による環境への放射性物質の影響について

委員より、解体撤去作業による環境への放射性物質の影響について排ガスや空間線量率だけでなく、水などについても監視していく必要があり、雨水や地下水についても調査しているようだが、影響についてはいかがか、との質問があった。

「日立造船・安藤・間・神戸製鋼所 JV」より、雨水、地下水ともこれまで放射性物質は検出されていない、との回答があった。

(3) これまでの仮設炉による処理結果の検証等について

委員より、仮設炉での焼却処理における減容化率、用役使用量などが、通常の焼却施設と比べどの程度の違いがあったか、あるいは何か設備を加えたことによるプラス効果等があったのか検証しておくべき、との助言があった。

(4) 焼却施設の解体について

委員より、焼却施設は来年度解体することだが、「日立造船・安藤・間・神戸製鋼所 J V」にはこれまでに施設の解体の経験があるので、その反省点などを踏まえて安全かつ効率的に工事を進めていただきたい、との助言があった。

以上